

令和5年度夜間中学設置促進説明会

夜間中学における不登校学齢生徒の登校可能性について

～ 教育の機会を広げる新たな展望 ～


認定特定非営利活動法人カタリバ

不登校児童生徒への居場所支援事業（足立区委託） 区中・北部統括責任者
夜間中学の設置促進・充実事業（文部科学省委託） 事業責任者

渡邊雄大（わたなべかずひろ）



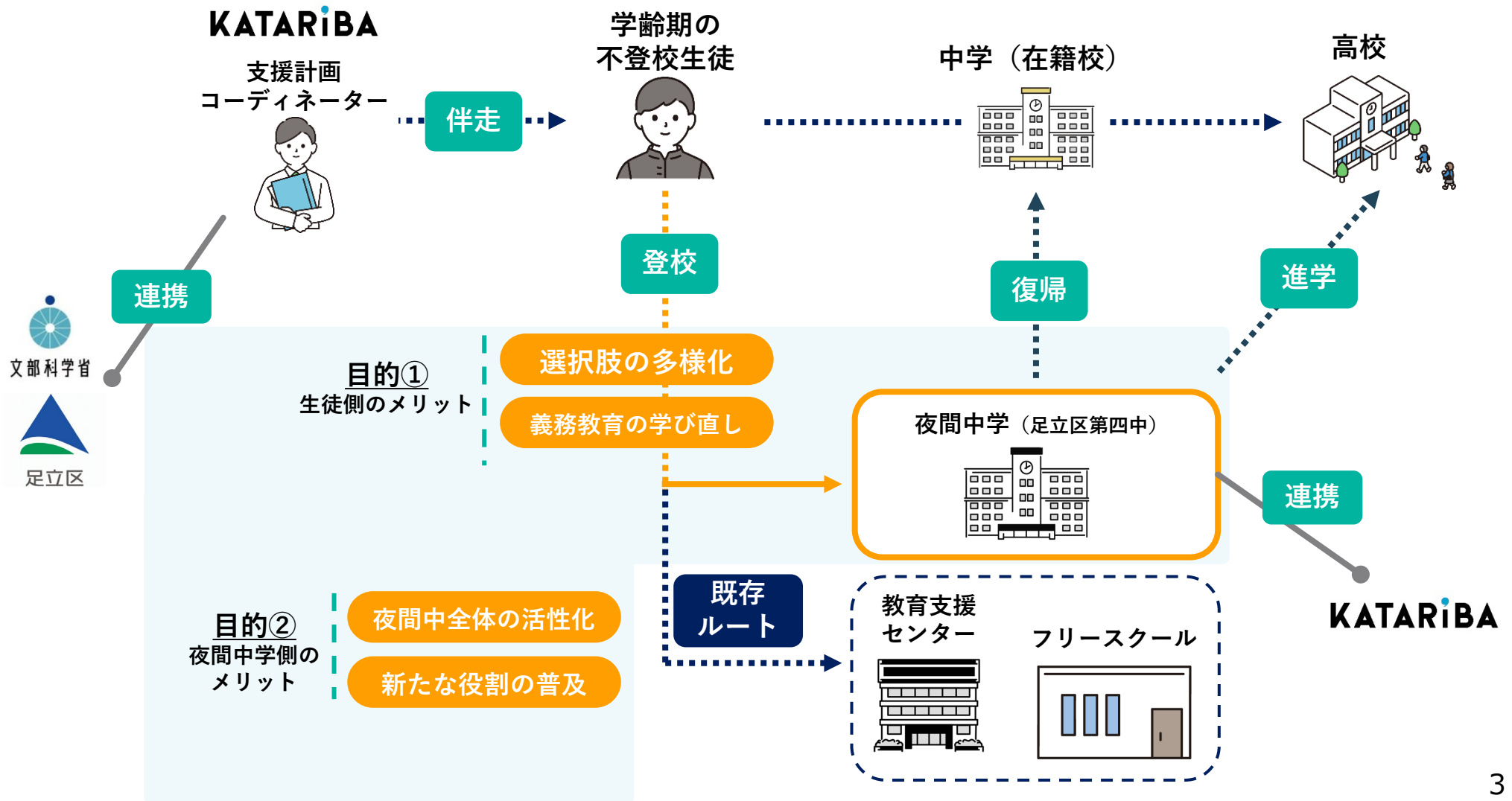
事業の目的

- ① 不登校生徒の**多様な教育機会の創出**
 - ② **学齢期の不登校生徒**を対象に**夜間中学に対するニーズ**の掘り起こし
-  **新たな活用方法を社会に周知**することで、設置促進・充実を図る

事業詳細

- **委託元**：文部科学省初等中等教育局 教育制度改革室
- **協働自治体**：東京都**足立区教育委員会教育相談課**
- **協力校**：東京都**足立区立第四中学校（夜間学級）**
- **期間**：2022年8月～2023年3月まで

本実証実験では不登校生徒の**多様な教育機会**を創出するだけでなく、**夜間中学全体**の活性化や新たな役割、機能拡張の方向性を模索した



義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

第十四条

地方公共団体は、学齢期を経過した者であって学校における就学の機会が提供されなかったもののうちにその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、**夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずるもの**とする。

不登校児童生徒への支援の在り方について（通知：令和元年10月25日）

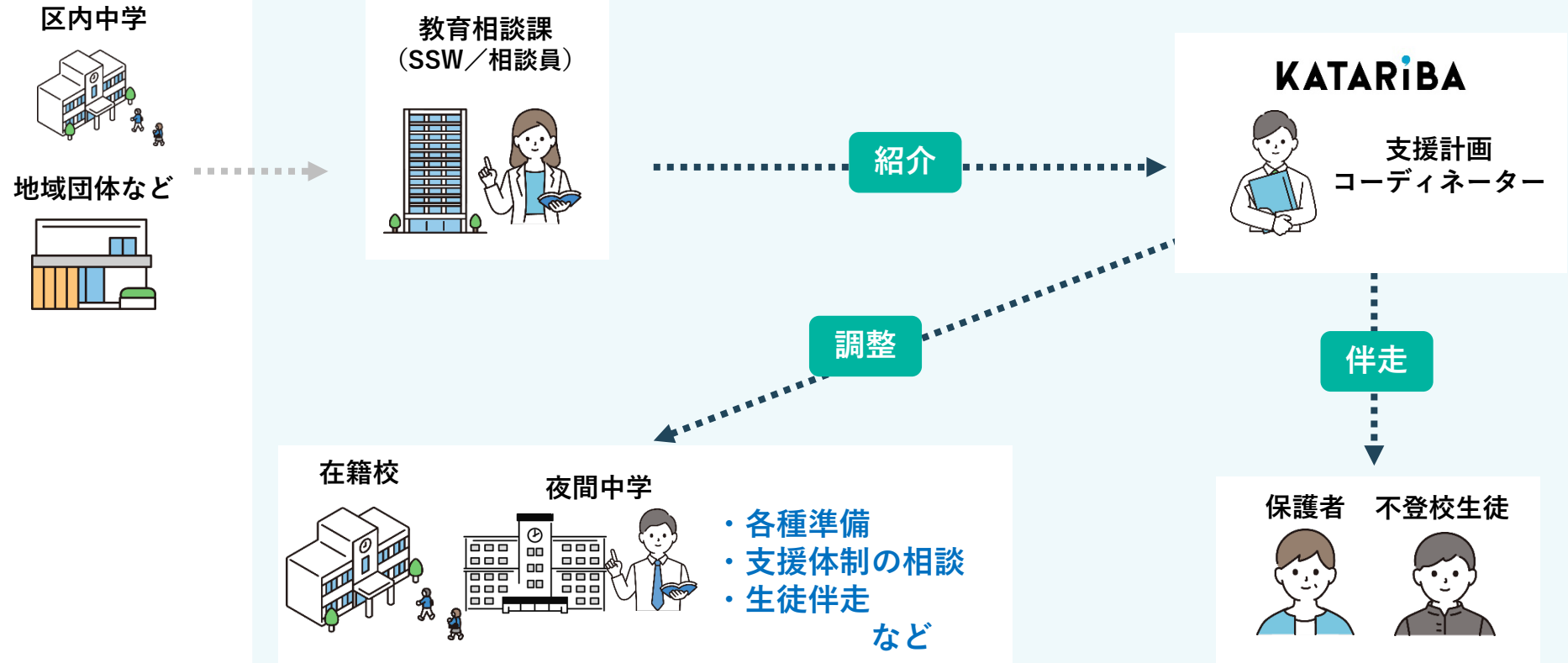
＜学校教育の意義・役割＞

児童生徒の**才能や能力**に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、場合によっては、教育支援センターや不登校特例校、ICTを活用した学習支援、フリースクール、**中学校夜間学級（以下、「夜間中学」という。）での受入れ**など、様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行うこと。

＜学校等の取組の充実：不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保＞

不登校児童生徒の一人一人の状況に応じて、教育支援センター、不登校特例校、フリースクールなどの民間施設、ICTを活用した学習支援など、多様な教育機会を確保する必要があること。また、**夜間中学において、本人の希望を尊重した上での受入れも可能**であること。

登録から支援までのイメージ概略図



支援計画 コーディネーターの役割

保護者や子どもとの面談を経て、一人一人の個別支援計画・学習計画を作成。心理師である専門スタッフが、コーディネーターとして保護者や教員と情報共有をしながら、生徒の心の回復や学習習慣づくり等を目的とした支援をリードする。

支援計画シート

個人情報のため非公表

【コミュニケーション面について】

【生活面について】

個人情報のため非公表

【学習面について】

個人情報のため非公表

【今後目指したい支援の方向性について】

個人情報のため非公表

管理職の先生方に相談しながら生徒の状態や能力を見立てたうえで利用方法を検討し、生徒の受け入れ開始期以降は現場の先生方と協議のうえ段階的な定着を促す。

ステップ1

学校見学

→夜間中の雰囲気を見学する

個人（保護者）面談

→見学の感想、参加の意思を確認

授業体験（週1コマ～）

→授業担当者に相談のうえ、
体験を開始する（仮登録）

ステップ2

授業体験（週2コマ～）

→体験回数を増やしなが
ら、本登録に向けた伴走を行う

個人（保護者）面談

→本登録の意思を確認
個別支援計画シートの作成

学校長面談（本登録）

→校長先生、副校長先生と相談
のうえ利用の決定

ステップ3

クラス分け

→継続的に参加するクラスの決定

給食利用

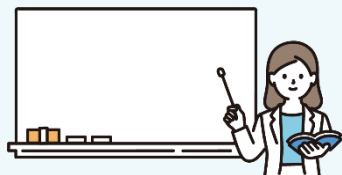
→副校長先生や栄養士の先生と
相談のうえ利用開始

継続的な登校へ

→生徒の状態や能力を考慮したう
えで、継続的な登校に向けた伴走
を行う

支援計画コーディネーターは、事前に協力校の先生方と協議の上、教室内でも支援対象者に同席し、授業に伴走する。支援対象者は教科によって得意不得意の差が大きいため、**自立した学習ができるよう必要に応じて支援の質・量を調整する。**

夜間中学先生



生徒



生徒



生徒



学齢生徒



伴走



※先生への確認のうえ、
必要に応じて伴走

支援計画
コーディネーター

伴走について

- ・集中していない生徒への声かけ
- ・先生の指示理解の確認
- ・授業内容の確認サポート
- ・問題を解く際のサポート
- ・授業準備のサポート

- ・登録から夜間中学への接続
- ・出欠連絡
- ・保護者連携等 含む

■TA方式（※Teaching Assistant）

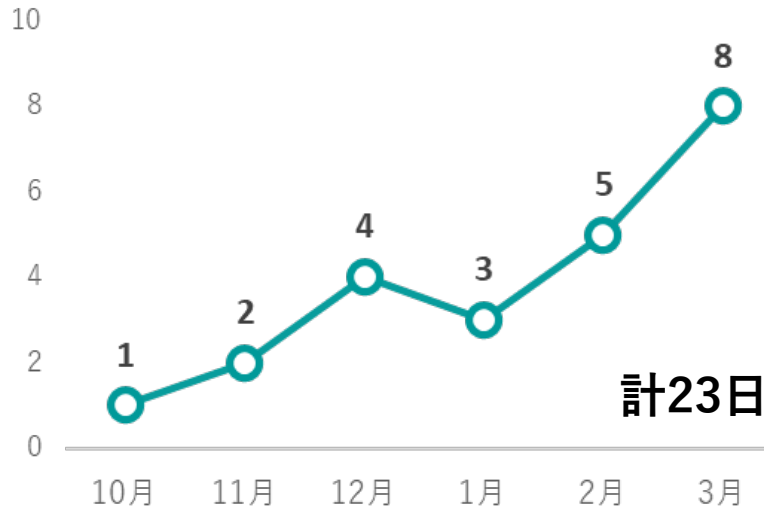
- ・学齢生徒が夜間中のクラスに参加
- ・担当の先生と協議のうえ、生徒の対応方針は決定

※大学等で使用される言葉ですが、カタリバ職員は教員ではないためアシスタントと記載

Aくん



中学2年男子生徒
令和4年10月より
利用開始

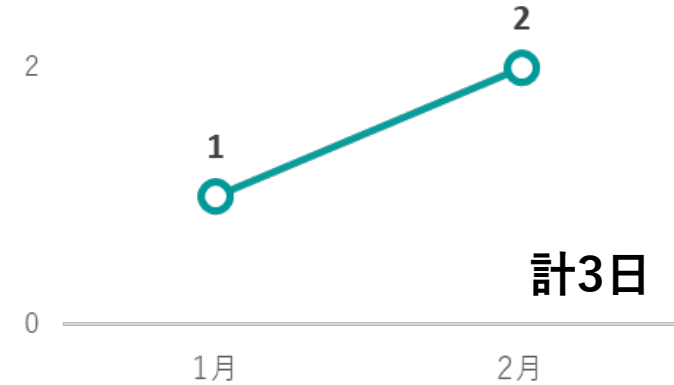


Cさん



中学3年女子生徒
令和5年1月より
利用開始

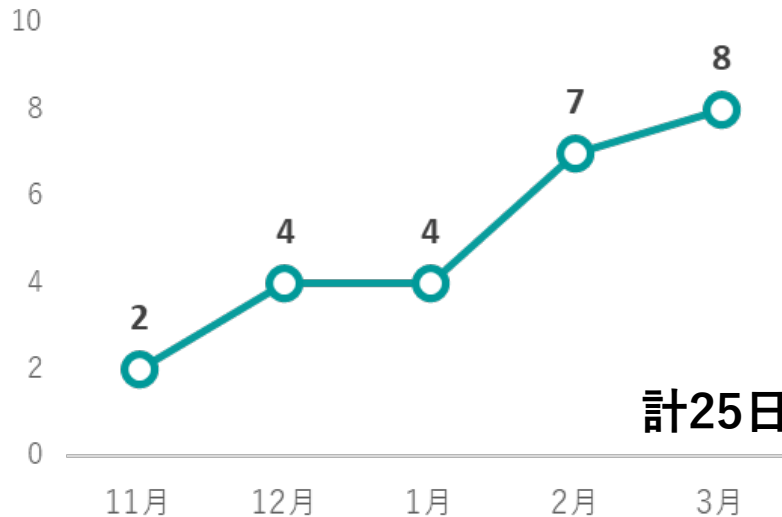
【進路】4月以降は「夜間中学」に進学が決定



Bくん



中学2年男子生徒
令和4年11月より
利用開始



Dさん

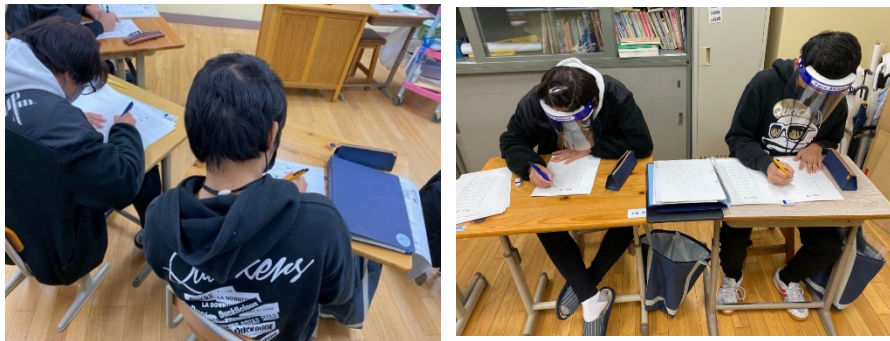


中学2年女子生徒

夜間中学の授業見学を1回実施。保護者からは利用の希望があったが、本人の意向により今回の実証実験への参加は辞退した。もともと学習意欲が強く、戻り学習よりも在籍校のクラス参加と同等のペースで勉強できる場所を必要としていた。

不登校状態だった支援対象者が、支援計画コーディネーターや学習サポーターと一緒に**教室**内で授業を受けることに慣れ、**テストで成果を実感できる喜び**などを経験した。

授業の様子



▲授業を受けている様子

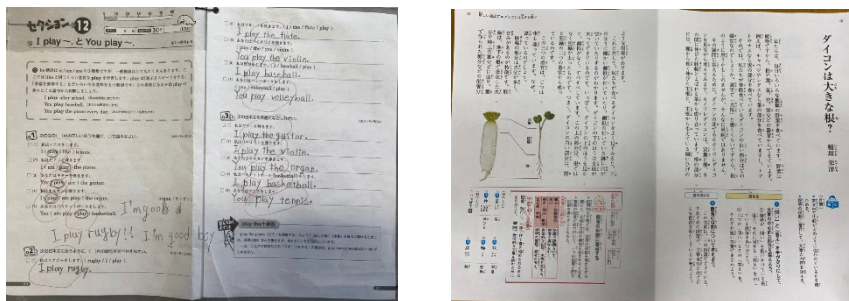
支援計画コーディネーターの学習伴走の様子



▲学習介入をしている様子

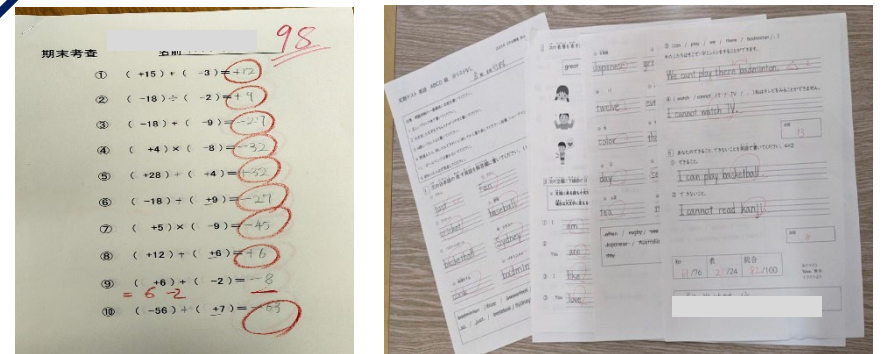
学習関連

プリント関連



▲先生が準備してくれたプリントを授業で使用した

期末テスト



▲期末テストの結果98点

▲期末テストの結果82点

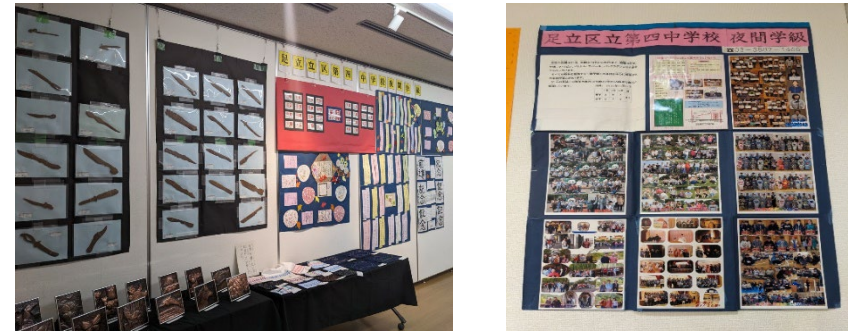
給食や社会科見学等の授業外の時間でも、年齢や国籍等が多様な夜間中学の他の生徒の皆さんとの交流が生まれ、夜間中学への登校動機が維持された。

給食



▲給食を食べる様子

社会科見学（葛飾区文化施設）

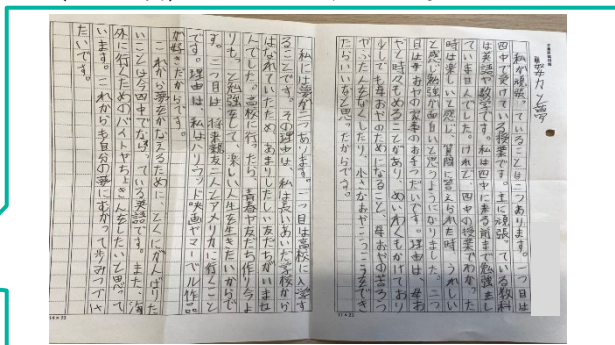


▲夜間中学合同作品展の見学

多様な機会
の体験

スピーチコンテスト

自分の将来の目標や、現在頑張っていることを一般クラス全員（約20名）の前で発表した。



美術での制作物



▲授業での作成物

区の教育相談課を通じて支援対象者の在籍校への報告を行い、在籍校は夜間中学での学びを適切に知り信頼につながる。夜間中学の授業参加が**出席扱いとして認められるよう在籍校と教育委員会に事前に要請**し、結果として**支援対象者3名のうち2名は出席扱い**となっている。

令和四年度 支援状況報告書

事業責任者印


Nb. 1 文部科学省：夜間中学設置促進・充実事業

中学校 [] 学年 []

月	来所回数	来所日	事業での様子	記入者
個人情報のため非公表				

報告の観点

- ・ 来所回数
- ・ 来所日
- ・ 夜間中学での様子

など

【前提情報】

中学1年次の前半から不登校。不登校状態になってからは、保健室や別室などへの登校もしていない。

個人情報のため非公表

【夜間中学に登校後の様子や変化】

夜間中学の授業に慣れると、自ら積極的に発言するようになった。
中学入学以来、定期考査などを受けたことがなかったが、夜間中学のテストの準備をするようになり、高校進学に対して意欲的な発言が増え、学ぶことが楽しいという主旨の発言を支援計画コーディネーターに話すようになった。

個人情報のため非公表

Bくん



中学2年男子生徒
令和4年11月より
利用開始

夜間中学に登校したことで**生徒本人にポジティブな影響**をもたらしているかなどを確認するために効果測定を実施した。

菊池章夫. (2004). Kiss-18研究ノート.
岩手県立大学社会福祉学部紀要、2、41-51.

他者から肯定的な反応をもらい、否定的な反応をもらわないように作用するスキル

【初歩的なスキル】

- ・他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか
- ・知らない人でもすぐに会話が始められますか
- ・初めて会う人に自己紹介が上手にできますか

【高度なスキル】

- ・他人にやってもらいたいことを、うまく伝えることができますか
- ・他人が話しているところに、気軽に参加できますか
- ・自分が何か失敗したとき、相手にすぐに謝ることができますか

【感情処理スキル】

- ・あなたは、相手があなたに対して怒っているときに、うまく落ち着いてもらうことができますか
- ・嫌なことや、つらいと感じたときに、気持ちをうまく整理できますか
- ・自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができますか

「5. いつもそうだ」～「1. いつもそうではない」の5件法で測定

桜井茂男. (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討.筑波大学発達臨床心理学研究、12、65-71.

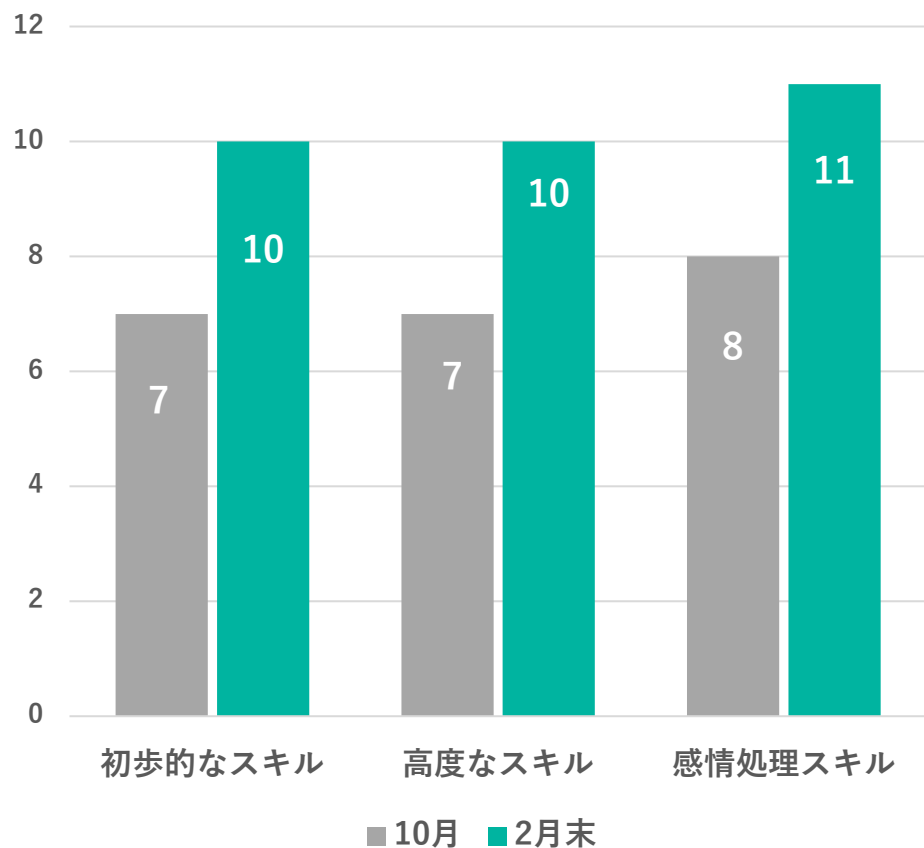
他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく、自身で自己への尊重や価値を評価する感覚

- ・私は自分に満足している
- ・私は自分がだめな人間だと思う
- ・私は自分には見どころがあると思う
- ・私はたいていの人がやれる程度には物事ができる
- ・私には得意に思うことがない
- ・私は自分が役立たずだと感じる
- ・私は自分がすくなくとも他人とおなじくらいの価値のある人間だと思う
- ・もう少し自分を尊敬できたらと思う
- ・自分を失敗者だと思いがちである
- ・私は自分に対して、前向きな態度をとっている

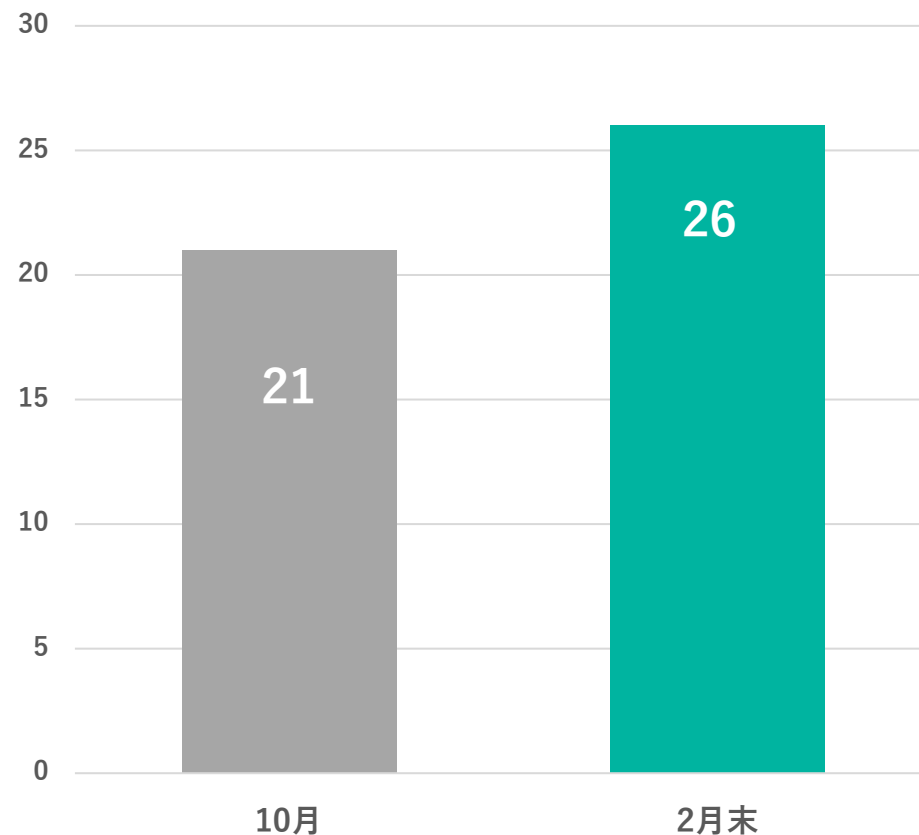
「4. はい」～「1. いいえ」の4件法で測定

授業中などにも積極的に発言する姿が頻繁に観察され、社会的スキルに関する3つの領域や自尊感情においても数値が向上した。夜間中学への登校によって他の生徒との対話の量が増えただけなく、**多様な年代やルーツの生徒に対して話し方なども工夫**するなど質的な変化もみられ、社会性が身に付いたとものと見受けられる。

Kiss-18（社会的スキル）



自尊感情



学齢期の不登校生徒の学びの場としての夜間中学の在り方については、必ずしも夜間中学をゴールとしない考え方も想定される。

本事業の支援対象者のように、不登校状態の生徒の中には「学校」という場所に本当は行ってみたいという子どももいることは確かである。そこで、義務教育段階中に在籍校ではないが「学校に通える」機会をつくる支援を行うことで「新たな学び直し」を促すとともに、在籍校へ復帰できるルートも設けておくことでステップアップの選択肢が広がる。

